



第83号

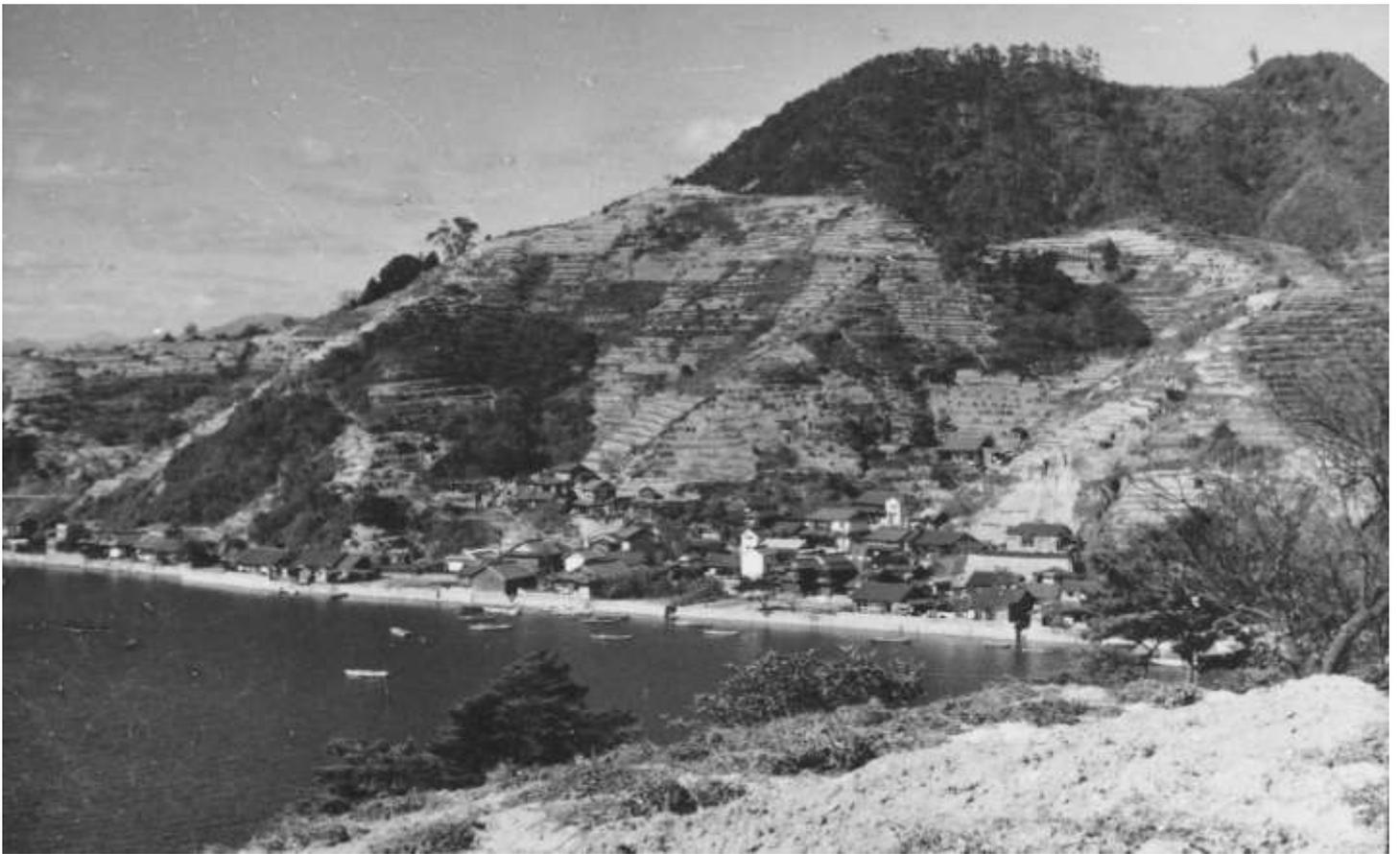
歴史と暮らしの赤れんが博物館



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS

企画展「変わりゆく広島 ～大下隆雄写真展～」



向洋側から黄金山を望む 1954年(昭和29)ごろ

南区仁保在住の写真愛好家大下隆雄氏は、主に1950年代以降、半世紀以上にわたって広島の写真撮影を続けてきました。当館ではこれまで常設展示のみならず、企画展の開催の際も、そのテーマに応じて大下氏が撮影された写真を利用させていただいてきました。こうして様々な写真に触れていくうちに、大下氏個人からテーマを組み立てた写真展ができるのではないかと思います、今回の展示を企画しました。

今回の展示で紹介している写真の大部分を占める1950～60年代は、広島が1949年(昭和24)の広島平和記念都市建設法の制定を梃子として、停滞していた復興を加速させ、大都市として成長を遂げていった時代です。大下氏のふるさと仁保も、相次ぐ埋立てや宅地造成によりめまぐるしくその姿を変えていきました。そこで、今回の展示は「変化」をキーワードに構成してみることにしました。

(2ページに続きます)



ひろしま郷土資料館だより

平成23年度後半（10月～3月）に実施した事業から

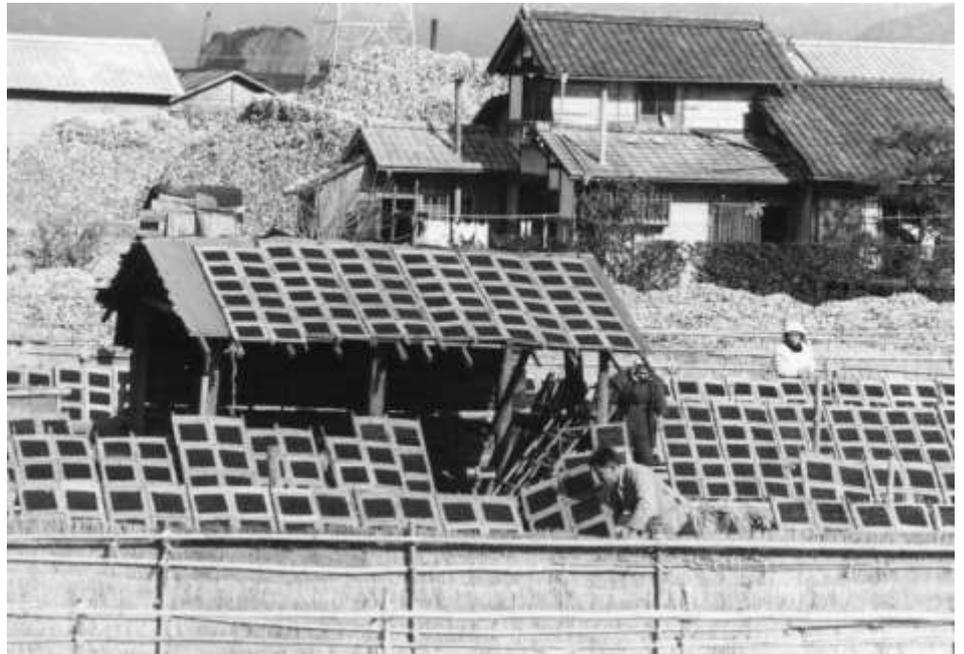
企画展「変わりゆく広島～大下隆雄写真展～」 2012.1.14～3.20

大下氏が写真を本格的に撮りはじめたのは、ご自身の子どもさんが誕生し、その成長を記録するためだったといえます。風景や街並みにも興味を持ち、当時まだ高価だったカメラやフィルムを手に、たくさんの光景を撮影してきました。

今回の展示では、大下氏と相談した結果、大きくは仁保近辺、広島市街中心部それぞれの光景の変化をたどれるような構成とすることにしました。仁保の光景についてはさらに黄金山や家並み、港の風景をまとまりとしたものと、そこに暮らす人々の営みをとらえたものとに分類し、それぞれ「Ⅰ ふるさとをみつめる」「Ⅱ ふるさとに生きる」としました。広島市街については、場所やイベントごとに写真をまとめ、「Ⅲ まちをあるく」としました。

そして、もうひとつ、大下氏の写真を特徴づけているものに「子ども」の写真があります。路地や自然の中で無邪気に遊ぶ子どもたち。記念写真のようなかしまったものではなく、全くの自然な姿・表情を絶妙のタイミングで切り取っています。本展示ではそれらを「Ⅳ 子どもたちへのまなざし」としてコーナーを特に設けることにしました。こうして総展示点数430枚余を190枚のパネルに編集しました。

さて、展示にあたっては少し不安がありました。私たち博物館関係者などには大下氏はよく知られた方なのですが、一人の写真愛好家のみの写真展が市民の方々に広く喜んでいただける



所狭しと乾される海苔 1960年（昭和35）

のだろうか、というものです。ところが展示が始まってみると、連日多くのお客様にお越しいただき、マスコミの取材も展示だけでなく大下氏ご本人に着目して報道するなど注目を集め、普段は静かなこの時期の資料館が、とても賑わいました。明るく、たくましく発展する広島の姿を懐かしみ、あるいは記憶にとどめていただけたものと思います。

そして本展示の担当者としてもう一つ胸をなでおろしたのが、大下氏ご本人に大変喜んでいただけたことです。私の編集が撮影者の意図とかけ離れていないだろうか、という思いは常

にあったのですが、ご本人からいただいた感謝の言葉に、喜んでいただいています。

最後になりましたが、写真展の開催を快くご承諾いただいた大下氏はもちろんのこと、一部のプリントの利用についてご協力いただいた広島市公文書館に心よりお礼申し上げます。

（大室 謙二）

なつかしいとお声を
たくさんいただきました。



相生橋と原爆ドーム 1956年（昭和31）



猿猴川河口で泳ぐ子どもたち 1960年（昭和35）

特別展「『提げる』かざり ～日本の粋は腰にあり～」 2011.10.1 ～ 11.6

現在、ベルトに小物入れやアクセサリなどをぶら提げる人をよく見かけますが、実はそのルーツは江戸時代に求めることができます。日本では身を飾る装飾品が発達しなかった時代が長く続きましたが、江戸時代になってから女性のみならず男性も凝った装飾品を身に付けておしゃれをすることに夢中になりました。その中で、「帯から粋な小物入れを腰に提げる」というものがあつたのです。

近代以前の服装にはいわゆるポケットがありません。そのため、細かな道具類は懐や袖に入れていましたが、そのほかに帯に差したりぶら提げたりして運ぶ方法をとっていました。この腰からぶら提げて携帯したもののうち、江戸時代になって装飾品として大発展を遂げたものの代表格が印籠と煙草入れでした。江戸幕府は武士・庶民に対して頻繁に質素儉約を命じ、しきりに贅沢を禁止する旨の法律を出しており、人々はお洒落がしたくても、豪華な衣

装や目立つ装身具で身を飾ることは困難でした。その点、印籠と煙草入れはそれぞれ薬・喫煙具を携帯するという小さな実用品であり、かつ腰にぶら下がっていて常に人目につくというもので、武士や町人は「身を飾りたい!」という欲求をこれらに託したのです。とはいえ、派手なものは作れないので、目立たないように目立たせるという屈折した美学のもとに、細かい細工を用いたもの、意表をついたデザインのものが発展していきました。

印籠・煙草入れの流行とともに「根付」の需要も増えてきました。根付は印籠や煙草入れに必要な留め具です。最初は、身の回りですぐに手に入る瓢箪や貝、木の実などがそのまま利用されていましたが、やがて装飾的なものが登場し、手のひらに載る大きさの物になりました。非常に細かな細工を駆使するようになりました。様々なデザインの根付は、小さな芸術品として現在も高い人気を誇っています。

このたびの展示では、江戸時代・明治時代を中心に印籠・煙草入れ・根付を展示しました。その美しさ・面白さは今も色褪せることなく、お見えになったお客様を魅了していました。これらを生み出した日本人の気質や好みは今なお生きており、これが今後どのような装飾品を生み出していくのか、興味は尽きません。

(本田 美和子)



金唐革腰差し煙草入れ（江戸時代）個人像

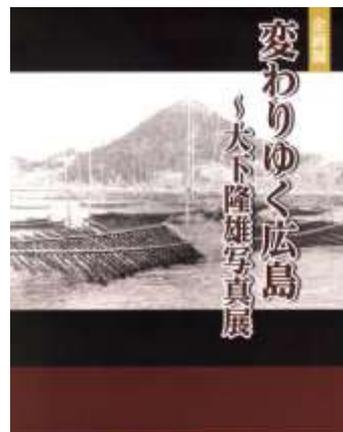
新刊紹介「『提げる』かざり」 2011.10.1



A4判 56ページ 900円（税込）

特別展「『提げる』かざり～日本の粋は腰にあり～」の開催に伴い、図録を発刊しました。煙草入れや根付、印籠など、今回展示された貴重な資料の数々がカラーで掲載されています。その他、根付や煙草入れの発展の歴史や広島における喫煙事情についても詳しく記されています。

新刊紹介「変わりゆく広島」 2012.1.14



A5判 41ページ 250円（税込）

好評を博した大下隆雄氏の写真展で展示された写真の一部を集めて書籍にしました。古きよき昔の風景はもちろん、広島の歴史や移り変わりも見ることができます。大下氏の写真集はこれまでに発売されていないので、貴重な作品を手元で眺めるよい機会になるのではないのでしょうか。

お問い合わせは資料館まで。HPでも紹介しています。



ひろしま郷土資料館だより

イベント「駄菓子作り広場」 2011.11.3

文化の日の無料開放にあわせて、「駄菓子作り広場」を実施しました。資料館周辺には駄菓子作りのブースや体験コーナーが設けられ、幼児から大人まで約6600人の参加者で賑わいました。綿菓子、カルメラ焼き、藍染め体験などおなじみのメニューに加え、今年度新たに「型ぬき」の体験コーナーも登場し、ど

のブースも順番待ちの行列ができるほどの盛況ぶりでした。また、当日は多くのボランティアの方に運営スタッフとして参加していただきました。会場のあちらこちらにたくさんの笑顔が見られ、和やかな雰囲気の中イベントは終了しました。

(牛黄著 豊)



行列ができるほどの大盛況でした！！

教室事業

伝統的な物づくりや、昔ながらの遊びを体験する教室事業の記録です。幼児から大人まで多彩な教室がありました。

10月10日(祝) 「根付」作り
 10月29日(土) みたらし団子作り
 11月19日(土) レンガ風ようかん作り
 12月10日(土) うどん作り
 12月17日(土) もちつき体験
 18日(日) 〃
 12月25日(日) 羽子板作り
 1月7日(土) まゆ玉人形作り

1月8日(日) 登り竜作り
 1月15日(日) にごめ作り
 1月21日(土) 磯の香り！ノリスギ体験
 28日(土) 〃
 2月5日(日) 江戸時代のカキ船料理体験
 2月11日(祝) バウムクーヘン作り
 12日(日) 〃
 2月17日(金) バウムクーヘン作り(大人)
 2月25日(土) はまぐりのひな人形作り
 3月3日(土) わらざうり作り
 3月17日(土) 東西味くらべ桜餅作り
 3月18日(日) 企画展関連イベント・広島学セミナー
 黄金山麓をあるく



わらざうり作りを教えてくださいました。
 上手にできたかな？

その他の活動・ボランティア

館外での講座や工作教室での指導などの記録です。また、今年度も3施設合同ボランティアの皆さんには様々な事業で活躍していただきました。

9月10日(土)
 まちづくり市民交流プラザにて
 講座「砂持加勢について」
 10月1日(土)
 仁保公民館にて
 講座「仁保の産業：海苔・牡蠣の養殖」
 10月8日(土)
 植物公園秋のグリーンフェア2011にて
 文化財課と「あさひもコースター作り」
 当館および宇品周辺にて
 講座「平和都市・広島を学ぶ」
 10月29日(土)
 ボランティアフェスティバルにて
 「一銭洋食作り」

11月13日(日)
 安芸高田市歴史民俗博物館にて
 講座「絵画工芸品に潜む意味ー日本の画題を知ろうー」
 11月23日(祝)
 ひろしま紙芝居祭にて
 「昔のおもちゃ作り」指導
 11月26日(土)
 福田公民館まつりハッチョウトンボ米
 収穫祭にて「昔の脱穀・精米」指導
 12月12日(月)
 市立大学にて講義「博物館資料論」
 2月10日(金)
 古市公民館にて講座「川船と広島」
 2月18日(土)
 青崎公民館にて「ノリスギ」指導
 2月21日(火)
 あやめ幼稚園にて
 出張教室「折り染めのひな人形作り」

2月23日(木)
 心身障害者福祉センターにて
 出張教室「藍染めのハンカチ作り」



お好み焼きの元祖、一銭洋食作り
 チャレンジ！

平成23年度をふりかえって

当館は旧宇品陸軍糧秣支廠であった建物の一部を改修使用していますが、今年度は建設から100年目となる節目であり、「れんガール」という看板娘のキャラクターも誕生して「糧秣支廠100年展」を開催しました。

また、近世日本の美的感性を表象する印籠や根付といった「提げ物」の展示、つい40～50年前なのにすっかり忘れてしまって今という喧騒に流されていることに気付かせてくれた「変わりゆく広島」の写真展など、大変ご好評をいただきました。

当然、学校の授業に関係のある「考古遺物」や「ごんぎつねが語る昔の暮らし」も少しずつ内容を充実させて開催、恒例になった「おばけの夏休み」も毎年待っていてくれる子どもたちがいるようで嬉しい限りです。

展示だけでなく、広島の地場産業や民俗歴史にかかる基礎調査研究も怠ることなく、これからもみなさまのご期待に応えられるように新しい博物館展開を試みていきたいと思いますので、ご支援、ご協力をお願いします。

(館長 沼田 有史)



平成24年度前半の企画展・イベント

企画展 「雁木」～ 広島の水辺の記憶 ～

【会期】4月14日(土)～5月27日(日)

「水の都・広島」において、河川と陸上の接点であった雁木が市民生活に果たしてきた役割や、身近にありながら知られていない雁木の魅力について紹介します。

大河ドラマ関連企画巡回展 平清盛の時代と瀬戸内海

【会期】6月8日(金)～6月24日(日)

平氏政権と広島県とのかかわりや『平家物語』の世界のひろがりなどを、実物資料や写真・図などをとおして紹介します。

夏休みイベント おばけの夏休み

【会期】7月31日(火)～8月31日(金)

今年も郷土資料館でおばけの夏休みをのぞいてみよう。アステールプラザとの共同開催。
【アステールプラザでは7月20日(金)～25日(水)まで開催】

企画展 「ごんぎつね」が語る昔の暮らし

【会期】9月8日(土)～12月24日(月)

童話「ごんぎつね」のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や情景を再現・展示して昔の人々の暮らしを紹介します。



ひろしま郷土資料館だより

コラム「広島諸商仕入買物案内記并二名所しらべ 全」

本資料は、明治時代初めの広島に店を構えていたさまざまな業種の店頭の様子を描いた銅版画集で、店舗の数は200を超えます。「名所しらべ」の名が示すように、広島城・厳島神社・音戸といった近郊の名所旧跡や特産物等も紹介されており、商店の宣伝とあわせて広島のガイドブック的な性格



①『広島諸商仕入買物案内記并二名所しらべ 全』本川沿いにあった問屋の様子

も兼ね備えたものでした。大阪の渡辺葉之助が編集し、広島の藤田栄吉・渡辺時太郎が明治16年（1883）に出版したもので、広島をはじめ大阪・東京・京都等で販売されました。この明治16年といえば、東京麹町に有名な「鹿鳴館」が開館した年でもあり、あらゆる階層の生活スタイルが欧風に一変したかのように思われがちです。しかしこうした風潮は都市部のごく一部に限られた現象であり、特に庶民の生活は江戸時代とほとんど変わらないものでした。本資料を見ても、こうもり傘・ランプ・人力車等の新風俗がふんだんに登場していますが、商家の構えや川岸の雁木の様子等にはまだまだ日本的なたたずまいが色濃く残されているのが分かります。

（稲坂 恒宏）

寄贈資料(平成23年11月～平成24年3月受入分)

資料内容	点数	寄贈者
①『広島諸商仕入買物案内記并二名所しらべ 全』	1	植木直之

ひろしま郷土資料館だより 第83号

【編集・発行】

(財)広島市未来都市創造財団 広島市郷土資料館

〒734-0015

広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082)253-6771 / FAX (082)253-6772

<http://www.hiroshima-net.ne.jp/kyodo/>

【発行年月日】

平成24年(2012)3月31日



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS